

安心して八王子駅前を歩くために

How to safely walk around the station at night?

EE-Q1-G3

大橋幸平、竹野下優斗、徳川優太、奈良海徳、本岡力成

指導教員 湯沢友之、坪川宏

東京工科大学 工学部 電気電子工学科

キーワード：治安、トラブル、飲酒、学生

1. 概要

近年の八王子市では、犯罪認知件数は年々減少傾向にある。しかし八王子駅付近では、客引きや酔っ払いに絡まれるなどの飲酒に係るトラブルが発生している。そこで八王子市には全国から学生が集まるという特徴を生かし、リテラシー教育を行うことでトラブル件数減少などの効果が見込めると考え、これに関する現状調査と解決案の具体的な内容と効果等について調査した。

2. 背景

全国から進学で八王子に移住/通学している大学生の「八王子に対するイメージ」として、「夜になると八王子駅付近の治安って少し悪いよね」といった意識が暗黙の中で介在している。

しかしこれがステレオタイプ(=偏見)か、実際に犯罪発生傾向が多いのか審議することは無い。

3. 現状と課題

現状調査では、八王子駅付近でのトラブルの内容や、学生が不安に感じるような場所や場面についての調査を行う。弊学工学部電気電子工学科の3年生に対しGoogleフォームで以下のようなアンケートを行ったところ73件の回答が得られた。

(1) 夜22時以降、八王子駅前を一人で歩くことに抵抗を感じるか?(選択)

(2) 八王子駅付近で怖いと思う場所は?(記述)

(3) 八王子駅付近で怖いと思った場面は?(記述)

(1)の調査では「夜に八王子駅付近を一人で歩くことに抵抗を感じる」と回答した学生は約24%に留まった。(2)の調査では、ほぼ全ての学生が何かしらの場所を記述しており、具体的には飲み屋街や裏路地、ゲームセンターやパチンコ店などの周りなどが挙げられた。(3)の調査では「酔っ払いに絡まれた」や「キャッチに捕まった」、「大声での喧嘩や、リンチを目撃した」、「泥酔者にアルバイト先店舗の備品を破壊された」などの回答が挙げられた。

実際に表1に示すように、令和2年度の犯罪認知件数^[1]は、近隣の繁華街や住宅街の警察署管内と比較し中央であった。一方泥酔者の保護者数は八王子が同警察署群の中で最多であり、大学生のイメージは必ずしも偏見とは言い切れない。

表1 犯罪認知件数と泥酔者等の保護状況(2020年)

	警察署名	暴行	傷害	公務執行妨害	泥酔保護者数
繁華街	町田	86	61	11	181
	立川	60	40	9	146
	八王子	50	56	7	193
住宅街	多摩中央	21	20	2	55
	南大沢	15	17	2	33

4. 解決方針

我々はこれらの結果を踏まえ「駅付近の環境」外的要素と、「自身がトラブルに巻き込まれないよう備える」という内的要素への解決手法を考案することで、安心できる八王子駅前を創り出すことが可能ではないかと考えた。

この方針に基づき、八王子市防犯課に現状の防犯対策状況を、八王子警察署に管内の事案発生状況と防犯面でのアドバイスについてご教示頂いた。

まず外的要素に関連した解決案であるが、現状、①悪質な客引きに対して現行の法律(国レベル)や条例(都・市レベル)に基づき、パトロール等を既に実施している。しかし法令での対応には限界があり、客引き関連のトラブルは八王子市に限らず後を絶たない。^[2]よって店舗売上のチャンスを保護しつつ、治安維持を実現する必要がある。そのため店舗の講習受講と防犯パトロールの義務を同時に負うことを条件に、市認可の腕章やステッカー掲示による客引き営業を許可する「市認可キャッチ制度」の設立、②若者が滞留しやすい駅前や裏路地に防犯灯を設置するほか、人流の多い通りを駅前から方向別に数本選定し、重点的に街灯を設置して安全な帰宅を促す帰宅推奨路「街灯増設ロード」の設定などが候補に挙げられた。

またトラブルに巻き込まれないようにする内的要因については、八王子警察署からの「トラブルに巻き込まれないためには、トラブルを自ら作らないようにする心がけが重要」という意見を参考に、③お酒の飲み方等のリテラシーや、トラブルに遭遇時の対処法を学生に教える『悪酔い・防犯対策(自制・自衛)講座』の実施案が挙げられた。

5. 解決策の提案と予想される成果

八王子市は大学が多く、必然的に学生数も多くなる。これらの学生がトラブルに巻き込まれにくくすると同時に、将来社会人になった際に八王子市内に留まらず、他の地域でも生かされることを狙い、我々は『学生への防犯リテラシー対策講座』を解決策として提案する。

具体的には年2回飲酒や防犯・危険回避に関する講座を行う。まずは第一弾として毎年4月頃に新生を対象とし、お酒の種類や酔い易さを元にした正しい飲み方などの性質的な面、自分の飲めるキャパシティをエタノールパッチテストなどによって知る量的な面に分け知識として伝える。そしてサークルなどで友人と集まる機会の多くなる

夏休み前の毎年7月頃に、20歳に達する2年生に対し飲酒時の周囲へのマナーとトラブルを起こさないようにするため・巻き込まれてしまった時の対処法などを中心に伝える第二弾の講座を実施する。それぞれ参加した学生には簡単な知識テストなどを行い、成績優秀者には学生が参加するきっかけとして、八王子市内の飲食店で使える割引クーポンなどを配布する。これは地域企業・店舗の利用促進につながる。さらにこの試験結果やアンケート内容を元に、八王子市内の大学と地元企業が協力することで、講座内容の充実化や強い関係性の構築も視野に入れることが可能である。これが可能なのは何よりも八王子市の強みである。

成果として、中長期的に学生に関連する犯罪認知件数の推移を調査し、学生が飲酒をはじめとしたトラブルに巻き込まれる件数が減少することが確認されれば、本講座による効果が出ていると言える。また全国から学生が集う学園都市の八王子で本講座を行うことで、年数の経過と共に全国に防犯・飲酒へのリテラシーを持った成人を継続的に輩出できると考える。

6. まとめ

若者が治安悪化の要因を作る/トラブルに巻き込まれることは、都市イメージの観点からも避けたい。しかし八王子市は学園都市であり、その性質を發揮し、学生に向け発信を行うことができる。防犯にこの特性を利用することは大変効果的で意義のある活動と言える。

参考資料

[1] 警視庁の統計 令和2年(2020年) 第38表 刑法犯の係別及び身柄措置別検挙人員(警察署別)

https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/about_mpd/jokyo_tokei/tokei/k_tokei02.files/ktd038.pdf

[2] 客引き対策について。 国分町地区安全安心街づくり推進協議会

<https://www.city.sendai.jp/shiminsekatsu/shise/security/kokai/fuzoku/fuzokukikan/shiminkyoku/documents/sankou1-tiikikankeisya.pdf>